

『中華民国医事綜覧』から見る近代中国の医学者と留学歴
—日本留学者を中心に—

見城 悌治

千葉大学大学院国際学術研究院

Medical scientists in Modern China and their study abroad destinations,
especially focusing on Japan: An analysis of the Compendium of the Republic
of China's Medical System and Situation

KENJO Teiji

要旨

日本の医学関係者が、近隣アジアへの医薬支援を目的として、1902年に設立した団体に「同仁会」がある。同会が1935年に発刊した『中華民国医事綜覧』には、中国の医師・医学者4773名の名前や履歴が掲載されている。うち、海外留学経験者は775名であり、留学先で最も多かったのは日本で500名を数える。

本稿では、その『綜覧』に見える日本の留学先24校別の名簿を作成するとともに、帰国後の職業を整理することにより、留学経験をどのような形で活かしていったのかを明らかにした。

キーワード

同仁会、中華民国、医師・医学者、海外留学、日本留学

はじめに

1902年に創設され、アジア（とりわけ中国）に対する医療支援をしてきた日本の医事団体に、同仁会がある。同会は「清韓其他亜細亜諸国に医学薬学およびこれに随伴する技術を普及せしめ、かつ彼我人民の健康を保護し、病苦を救済するにあり」を会の「目的」に掲げ、「清韓其他亜細亜諸国に対し、医学校薬学校・医院および薬局の設立」をすること、「留学生および薬学生の留学を勧誘し、かつその留学生を保護し、修業の便を与える」⁽¹⁾ことを会の目的として掲げていた。実際に、中国の北京、漢口、済南、青島にそれぞれ「同仁会医院」を建設し、現地に住む日本人だけでなく、中国人に対する医療を行うことになる。また、中国から来日した医薬留学生の支援もし、帰国後、医師となった人たちへの情報提供なども積極的に行っていた⁽²⁾。

この同仁会が、1935年に『中華民国医事綜覧』なる書物を発刊している（発行地は東京だが、使用言語は中国語）。全475頁からなる大著のうち、270頁が「中国医師名録」に充てられ、そこには中国の医師・医学者4773名の名前や履歴が収められている⁽³⁾。

筆者は、近代日本で学んでいた留学生の研究を重ねており、中国の医薬留学生についてもその研究対象にしている⁽⁴⁾。そうした筆者から見ると、医師4773名の留学経験を含めた諸情報を収めている「中国医師名録」はきわめて貴重な歴史史料と言わざるを得ない。管見の範囲では、この史料の紹介・分析をした論考はないため、ここにみえる留学経験者の特質を、日本留学経験者に焦点を当てて、まとめることを本稿の課題としたい。

1 『中華民国医事綜覧』の概要

まず『中華民国医事綜覧』（以下『綜覧』）の概要を説明しておきたい。同書の構成は、「叙言」、「目次」に続き、①「中国新医学之発達」（全体の概要説明：全4頁）、②「中国医事行政法規」（全63頁）、③「中国医事行政機関」（全3頁）、④「中国医学教育機関」（全4頁）、⑤「中国医院名録」（全61頁）、⑥「中国医師名録」（全270頁）、⑦「中国主要都市の医師分布」（全1頁）、⑧「中国薬房名録」（全49頁）、⑨「中国医学文献及刊物一覧」（全9頁）、⑩「医学書目」（全8頁）、⑪「新医学定期刊行物一覧」（全3頁）の順番に収められており、1930年代半ばの中国の医学全体がまさに総覧できる書籍となっている。

まず、「叙言」の概要を紹介しておきたい（この箇所のみ中国語と日本語とが併記されているが、本編は、「広告」を含めすべてが中国語である）。

筆者は同仁会理事であった小野得一郎である。小野は、まず「中日の国交が漸く善隣の常道に復帰せんとするは吾人の最も喜ぶ処」と述べながら、経済的提携や外交工作だけでなく、「精神的文化的學術的方面の提携」も必要である。そのためには、「真に誠意ある国民外交で無ければなら」ないし、その意味で「専ら中日医学の提携を主張」しようとする⁽⁵⁾と述べた。そして、これまで同仁会が中国に医療機関を設け、中国語による医学雑誌を発

行し、また日本の医薬学書を中国語に翻訳出版し、現地で流通を図るなど、「善隣精神を普及するにあらゆる努力」を重ねていると自賛した。それに加え、今回の『医事綜覧』の発刊によって、「中日医界の聯絡提携の為に否精神的国民外交速進の為に貢献」したいとした。そして、同書が「中国医界の鳥瞰的大観」であり、「苟も民国医界の近状現態を詳かにせんには本書を措いて他にない」と胸を張るのであった。

つまり、医学を通じた「善隣精神」を具体的な形で普及しようとしてきた同仁会が、さらに「精神的国民外交速進」の目的をもって、この中国医学事情の「鳥瞰的大観」を作成しようとしたと言うのである。

ところで、1923年から、日本政府（外務省）は、日中関係を好転する政治的目論みをもって、「対支文化事業」を始めている⁽⁵⁾。同仁会は1902年から活動を開始していたが、この文化事業の助成も受けていくことになる。そうした事情も併せ、同会理事の小野の発言には、自分たちが「精神的国民外交」に貢献してきたことへの自負が伺える。そして、たしかに、この書物自体は、中国の医学関連データを集積しており、「民国医界の近状現態」を把握するために有益な書物であったことは確かであろう。

さて、同書の半分あまりを占める「中国医師名録」には、4773名の医師名が載せられているが、そもそも当時の中国国内には、何名の医師がいたのであろうか。

同仁会が発行していた中国語雑誌に『同仁会医学雑誌』がある。その第三巻第一号（1930年1月）に、「中華全国医師調査 民国十八年（1929年）12月現在（北平・金子直⁽⁶⁾先生特訊）」という報告が載せられていた。そこには、「1928年に「医師暫行条例」が公布され、「医師領証」の発給をすることになり、1400名が申請したが、合格したのは800名に過ぎなかった。その資格者は国内外の官立あるいは公私立医学専門学校以上の卒業生としたが、条件が厳しすぎたようである。よって、条例の改正を考えている。一方で、現在、国内の正式な医学校を卒業した医師は4000名に満たない。外国の医学校卒業者は1000名もいない。よって、正式な医師の数は、5000名前後であろう。また民国の医学校は、1883年に創設された天津海軍医学校から、1926年創設の満州医科大学まで24校を数える。これら24校の卒業生は、1929年までで3816名に上る（p 60：原文の中国語を筆者が適宜翻訳した）」などと記されていた。

つまり、この報告に従えば、1930年ころの中国全体の医師は5000名前後であったようだ。なお、ここで言う「医師」とは、西洋医学を習得した人であり、中医学（漢方医学）の医師は含まれていないと思われる。『綜覧』には「中国主要都市の医師分布」という一覧も含まれているため、それを表1として掲げた。それによれば、16都市の「医師数」は2940名であったとされる。一方、そこには「旧式医師数」も掲げられており、その総計は11693名であった。1929年末の「5000名前後」という数字が、こちらでは「2940名」となっている。ただし、16都市以外にも「西洋医」はいたはずなので、「5000名」という数は、概数としてはさほど間違っていないように思える。

表1 中国主要都市の医師分布（出典『中華民国医事綜覧』p 406）

都市名	医師数	旧式医師数
上海	473	4,780
広州	909	1,972
南京	213	345
北平	230	886
天津	138	837
漢口	160	588
武昌	71	234
杭州	190	261
青島	64	191
済南	47	236
福州	131	344
長沙	66	274
開封	87	131
南昌	59	247
太原	58	61
汕頭	44	306
総計	2,940	11,693

2 『中華民国医事綜覧』に見る海外留学者

この『綜覧』は、日本の医学団体である同仁会が1935年に作成した書物であるため、「日本の医学校」の範疇に、台湾・朝鮮などの植民地、また中国大陸において日本が実質的に経営していた医学校も入れられている。その校名と修学者の数を示せば、「満州国」内にあった「南満医学堂」20名、「満州医科大学本科」2名、「満州医科大学専門部」9名、日本の統治下にあった青島の「同仁会青島医学校」16名、日本が広東省廈門（アモイ）に建設した「博愛会医学校」51名、さらに台北医学専門学校15名、朝鮮が4名（世富蘭医学学校3名、不明1名）の計117名のデータも掲載されていた。さらに言えば、「香港」で学んだ者も19名も含まれていた。

これらをどのように処理するか、やや悩ましいところであるが、本稿では「日本の統治下／管理下にあった医学校」の117名および香港の19名を足した136名は、海外留学者と見

なさない形で議論を進めていくこととする。

その上で、『総覧』の「中国医師名録」に掲載されている4773名の海外留学先を国別人数としてあげると以下のようなになる（複数の国に留学している場合はそれぞれ「1」としたため、実数より多くなっている）。

すなわち、日本留学者500名、アメリカ114名、ドイツ100名、イギリス27名、フランス21名、オーストリア5名、スイス1名、ベルギー1名、ニュージーランド1名、フィリピン2名、安南（ベトナム）1名、「印度支那」2名であった（総計775名）。

つまり、海外留学経験者は775名であり、全掲載者4773名の16%にあたることになる。これらの医師・医学者が学んだ大学を国別により詳しく示すと、以下となる（なお、複数の国の大学で学んだ場合は、それぞれカウントする延べ数としている）。

【日本 500名】（500名を775名に照らすと64.5%となる。以下の各国の百分比も同じ。また校名は、同書の「中国医師名録」の「凡例」に掲げられた学校名をそのままあげ、カッコ内に現在の大学・学校名を示すこととする）

千葉医科大学（千葉大学医学部・薬学部）99、東京帝国大学医学部（東京大学医学部）89、長崎医科大学（長崎大学医学部・薬学部）68、名古屋医科大学（名古屋大学医学部）39、九州帝国大学医学部（九州大学医学部）31、岡山医科大学（岡山大学医学部）24、東京女子医学専門学校（東京女子医科大学）24、東京医学専門学校（東京医科大学）24、東北帝国大学（現東北大学医学部・薬学部）20、日本医科大学18名、大阪帝国大学医学部（大阪大学医学部）16、京都府立医科大学11、東京薬学専門学校（東京薬科大学）10、東京慈恵会医科大学（慈恵医科大学）9、京都帝国大学医学部（京都大学医学部）7、慶應義塾大学医学部6、熊本医科大学（熊本大学医学部）5、金沢医科大学（金沢大学医学部）4、東京高等歯科医学校（東京医科歯科大学）3、富山薬学専門学校（富山大学薬学部）2、新潟医科大学（新潟大学医学部）1、日本歯科医学専門学校（日本歯科大学）1、日本大学専門部医学科（日本大学医学部）1名、大阪歯科医学専門学校（大阪歯科大学）1名
総計513名（日本国内の複数校の在籍者を入れた延べ数）。

【アメリカ 114名】（14.7%）

ペンシルベニア大学（以下、「大学」は略す。他の国々もそれに倣う）20、ハーバード18、ジョンズホプキンス12、シカゴ11、ミシガン11、セントルイス6、カンザス4、ノースウェスタン4、ワシントン2、コロンビア2、シラキュース2、ウェスタン・リザーブ2、ミネソタ1、バージニア1、ジョージワシントン1、コーネル1、イリノイ1、イェール1、ヴァンダービルト1、オハイオ1、カリフォルニア1、マーケット1、ボストン1、ジェファーソン1、ニューヨーク1、シンシナティ1、スタンフォード1、テネシー1、不明4名。

【ドイツ 100名】（12.9%）

ベルリン63、ハイデルベルク8、フライブルク6、ゲッチンゲン6、ハンブルク6、チュー

ビンゲン3、フランクフルト3、ミュンヘン2、ロストック2、ヴェルツブルク1。

【イギリス 27名】 (3.5%)

エジンバラ12、ケンブリッジ6、グラスゴー3、コロンビア3、ロンドン2、インペリア1。

【フランス 21名】 (2.7%)

パリ9、ボルドー6、リヨン4、ストラスブール1、モンペリエ1。

【オーストリア 5名】 (0.6%)

ウィーン5。

【フィリピン 2名】 (0.3%)

魯文 (原史料ママ)

【ニュージーランド 1名】 (0.1%)

カンタベリー1。

【スイス 1名】 (0.1%)

ベルン1。

【ベルギー 1名】 (0.1%)

大学名不明。

【安南／印度支那 3名】 (0.4%)

ハノイ大学1、不明2。

海外留学経験者のうち、全体の3分の2が、日本留学経験者で、アメリカの15%、ドイツの13%を大きく上回っている。ベトナムへの留学生も少数ながらいたことも明らかになる。

次節では、中国人医師の多くが留学した日本の留学先を学校別の一覧として示し、その特色を論じていきたい。

3 『中華民国医事綜覧』に見る日本留学者

1) 学校別の留学者一覧

ここでは、『綜覧』に見える日本留学者の留学先別名簿一覧(表2)を掲げることとする。留学先の学校名は、『綜覧』(1935年)の「凡例」に記載してある学校名を、そのまま冒頭に掲げ、現在の校名はカッコ内に入れ、人数も加えた⁽⁷⁾。

この名簿の元史料である「中国医師名録(全270頁)」は、「姓」の漢字画数が少ない順に整理されている(「丁」から「龔」まで)。よって、筆者が一覧にまとめるに際しても、基本的に同書が掲げた画数順で並べることとする(一方で、「医学」「薬学」は分け、さらに複数の大学で学んだものは、それらの後に置いた)。

一覧表は、左から各々の通し番号、また「名録」の分類分け—「姓名」、「別号」、「出身省」、「医学・薬学の別」、「住所・診療所」—を挙げ、最後に『綜覧』の掲載頁を加えている。

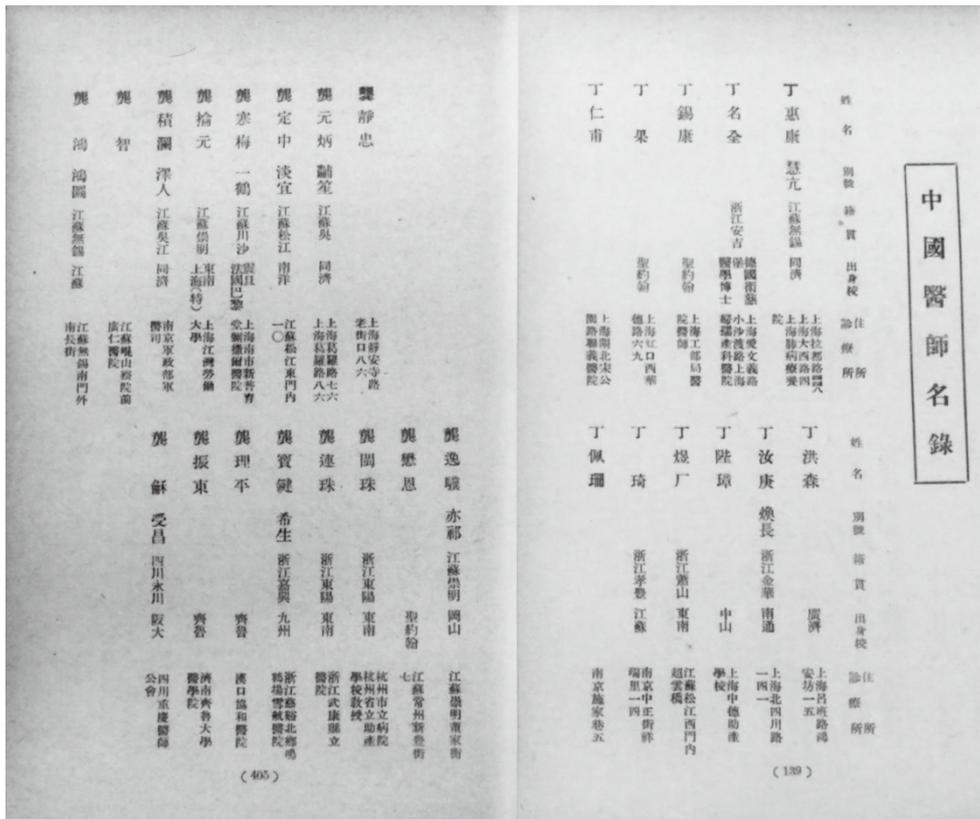


図 『中華民國医事綜覽』中国醫師名録 最初の頁 (p 139) と最終頁 (p 405)

なお、この名録の「凡例」には、「香港、マカオ、シンガポールなどの地域にも中国医師が開業している者は少なくないが、この名録には登載していない」とある。さらに、参考文献としては「領證医師薬師助産士一覽」、「上海医師公会年鑑」、「漢口市医師公会會員録」、「中国医界指南 民国十九年」、「同 二十一年」、「同 二十三年」、「東南医学院一覽」、「南通学院医科同学録」、「私立夏葛医学院章程」、「私立湘雅医学院章程」、「私立山東齊魯大学医学院校友録」、「江西省立医学専科学校同学録」、「私立北平協和医学院教職員名録」、「奉天医科専門学校概況」、「北平協和医学院報告書」、「国立中央大学医学院^(ママ)」、「浙江省立医薬専門学校校友録」、「私立南洋医学院一覽」、「光華醫師会特刊」の19点が挙げられている (p 138)。

表2 中国人医師の日本の留学先

1. 千葉医科大学 (千葉大学医学部・薬学部) 99名

1	方 擎	石珊	福建	医学	北京・首善医院院長	145
2	毛汶泉	濟美	浙江	医学	上海天一味母廠廠医	146
3	王 佶	吉人	浙江	医学	同仁外科医院、浙江医専付属病院長	152
4	王 式	居素	浙江	医学	大同医院	152

5	王若儼	厚卿	江蘇	医学		155
6	王孝湘	彦芸	福建	医学		158
7	田龍瑞	秋明	湖南	医学	長沙・秋明医院	163
8	石君俠		安徽	医学	安徽・惠民医院	164
9	向仙果	自覺	湖南	医学	長沙・民生藥行	166
10	朱章貴	仲青	浙江	医学	杭州・南海医院	170
11	何煥奎	星萃	江西	医学	江西・予章医院	175
12	余繼敏	德蓀	浙江	医学	浙江医專教授	178
13	吳啓東		広東	医学		181
14	吳公望	鳳章	浙江	医学		184
15	吳道益	与階	浙江	医学		186
16	吳祥鳳	鳴岐	浙江	医学	北平国立大学医学院院長	186
17	宋師濤	振白	浙江	医学		191
18	李希賢	書城	江蘇	医学	南京・城中医院	195
19	李定	慎微	浙江	医学	浙江医專教授	196
20	李復真	素冰	浙江	医学	浙江・大南医院	196
21	李属春	甲才	江西	医学	江西医專教授、章江医院	197
22	李垣昌	廼文	山西	医学		199
23	李祖蔚	文碩	福建	医学	広西省立医学院教授、広西省立南寧医院院長	205
24	汪与準	曙霞	浙江	医学	南京軍政部兵工署	207
25	沈王楨	修是	浙江	医学		211
26	孟存心	省初	陝西	医学	山西・宝宝医院	220
27	林均	鏡平	浙江	医学	浙江医專教師	225
28	林卓立	儕鶴	福建	医学		226
29	邵巖	爾瞻	浙江	医学	上海東南医学院	230
30	金宝善	楚珍	浙江	医学	南京内政衛生署	231
31	金鳴宇	仲蟄	江蘇	医学	南京・鳴宇医院	231
32	金子直	敏齋	浙江	医学	北平・博愛医院	232
33	侯毓汶	希民	江蘇	医学	天津市社会局衛生科長	233

34	姚爾明	叔高	河北	医学	陝西省立医院	235
35	施迪	貽惠	福建	医学	福州·復人医院眼科主任	237
36	柯青	伯棠	福建	医学	福建·伯棠医院	238
37	員拜仁	止殺	陝西	医学		249
38	孫遵行	道夫	浙江	医学	杭州市立医院	253
39	畢鳳章	凌霄	江蘇	医学	上海·汽巴藥廠	262
40	崔瀛	雲史	廣東	医学		270
41	張錫祺		福建	医学	上海·光華眼科医院	274
42	張聿懷	稚菴	浙江	医学		283
43	張鎔	仲鈞	浙江	医学	廣西省政府衛生部	284
44	章志青		浙江	医学		290
45	許普及	漢珊	江蘇	医学	江蘇·普濟医院	293
46	郭琦元	頡韓	江蘇	医学	東南医学院院長兼東南医院長	294
47	陳倬	卓人	浙江	医学	上海東南医学院教授	297
48	陳宏声	衡心	福建	医学	浙江医專教授	303
49	陳能慮	致遠	湖南	医学	長沙·致遠医院	305
50	区偉基	佩韋	廣東	医学	廣州·上池藥房	316
51	湯紀湖	蠡舟	江蘇	医学	上海東南医学院教授	321
52	程世則	公度	江蘇	医学	湖北第一陸軍医院	324
53	馮元亮	慕陶	四川	医学	四川医專教務長	329
54	黃孟祥	玖瑜	湖南	医学	南京·康濟医院	331
55	黃裕綸	伯宣	廣東	医学	江蘇·南通学院医科	332
56	黃家政	季平	江蘇	医学	江蘇縣公立醫院長	332
57	黃曾燮	間羹	浙江	医学	杭州·長生醫院長	332
58	楊鶴慶	叔吉	陝西	医学	陝西省防疫處	341
59	董德新	慎伊	浙江	医学	南京·三山医院	347
60	熊輔龍	省之	江蘇	医学	江蘇·省之医院	351
61	趙師震		江蘇	医学	江蘇·南通学院医科	355
62	劉之綱	悟淑	江西	医学	上海·申江医院	357
63	劉榮敬	戟門	浙江	医学	浙江寧波·仁濟醫院長	360

64	劉之紀	清叔	江西	医学	江西省立医專附属医院	361
65	潘 経	法常	江西	医学	南京軍政部軍医司	367
66	鄧純棣	夢仙	四川	医学		372
67	鄧 初	仲純	安徽	医学	青島大学教授	373
68	鄧光濟	文波	貴州	医学	貴州省立医院長	373
69	鄭万育		江蘇	医学	北平大学医学院附属医院(婦人科)	375
70	繆 晃	澂中	浙江	医学		384
71	蹇先器	孟涵	貴州	医学	北平大学医学院附属医院長	387
72	儲晋芳	天任	江蘇	医学	青島市立医院	390
73	闕行健	徳輔	江蘇	医学	江蘇・徳輔医院	402
74	李文瀾	翰波	広東	医学、慶応義塾大学	南京・夫婦医院	195
75	張光漢	幹廷	福建	医学、東京帝国大学	福建・莆田県立医院長	283
76	丁求真	任生	浙江	医学、米ジョンホプキンス大	西湖療養院院長、浙江医專教授	140
77	朱其輝	内光	浙江	医学、独ベルリン大学	浙江医專校長	170
78	王 鈞	周回	山西	薬学	山西太原・軍医官	154
79	王麟書	紹虎	江西	薬学	天津市衛生科化驗所技正	156
80	王 琨		雲南	薬学	雲南・恵生診所	159
81	江 澐	笑波	江西	薬学	江西省立陶業学校教務長	172
82	何俊才	垂杰	江蘇	薬学	上海・閔行医院医師、保康薬房	175
83	易 律	繩初	江西	薬学	広西軍医院	223
84	邱秉銓	衡中	江西	薬学	武昌・民衆医院	229
85	紀 緒	杰三	江西	薬学	北平大学医学院薬局主任	241
86	徐錫驥	季蓀	浙江	薬学	上海・大生製薬公司	256
87	徐伯鋆		浙江	薬学		258
88	張效宗	丹成	山西	薬学	上海東南医学院教務長	274
89	張斗南		陝西	薬学	上海健華化学製薬廠	274

90	彭樹滋	敏伯	江蘇	薬学	南京中央軍官学校医院	318
91	趙汝調	寿喬	江蘇	薬学	上海・新亜薬廠	354
92	趙福琳	少艇	陝西	薬学	陝西陸軍医院	357
93	劉文超	步青	陝西	薬学	上海・新華薬行	358
94	蔡薪伝	箴若	江蘇	薬学	武昌第八陸軍医院	370
95	薛宜琪	其玉	江蘇	薬学		384
96	謝維楫	濟川	山西	薬学		387
97	蕭 登	燦星	湖南	薬学	長沙・湖南公医院	393
98	魏文鉞	峻林	湖南	薬学	長沙・湖南医院	395
99	譚海夫	漁庵	広東	薬学	広州・新華薬行、軍医処材料科長	398

2. 東京帝国大学医学部（東京大学医学部） 89名（女）は原史料ママ

1	王曾憲	彰孚	江蘇	医学		147
2	余竹軒		広東	医学（女）	広州育慈助産学校教授	179
3	呉 倬	卓人	江蘇	医学	蘇州・卓人眼科医院	183
4	宋懋傅	梵仙	浙江	医学		190
5	李墀身	望顔	浙江	医学		192
6	李君惺	望平	江蘇	医学	江蘇・望平医院	195
7	李幸賢		広東	医学	江蘇・厚生医院	196
8	李為漣	文漪	江西	医学	江西省立医専校長	197
9	李翹才		江西	医学	江西・章江医院	197
10	李鼎助	竹虚	湖南	医学	長沙・湘雅医学院（病理学）	198
11	李鍾雅		河北	医学		200
12	李灼槐		広東	医学	広東・番禺県立医院長	203
13	李博文		広東	医学	広東・鉄城医院長	205
14	沈其震	起凡	湖南	医学		211
15	沈 毅	立明	福建	医学	広西南寧省立医学院	211
16	阮德和		広東	医学（女）	広州・育慈医院	213
17	周全翰	用康	浙江	医学		215
18	周詩助	頌凡	江蘇	医学	蘇州・頌凡小児科医院	216

19	周用康		浙江	医学		217
20	林葆賂	之純	福建	医学		225
21	邵象伊	尹孫	浙江	医学	江蘇省立医政学院教授	230
22	金煦章	曜弘	江蘇	医学	江蘇・太倉医院	231
23	姚鑫振	伯麟	陝西	医学	改造与医学社	235
24	姜書梅	春白	江蘇	医学	浙江・宝林医院院長	236
25	胡猷尚	樂民	江西	医学	江蘇・如臯医院外科	242
26	范天麟	石侯	江蘇	医学	江蘇・新南藥房、南通戒菸医院院長	246
27	徐日新		広東	医学		260
28	殷蕙田	木強	江蘇	医学 (医学博士)	上海東南医学院教授	262
29	張念和	挹春	江蘇	医学	江蘇・南通学院	277
30	張聖徵	鐘泗	浙江	医学	杭州眼科医院、浙江医專教授	277
31	張方慶	善樑	浙江	医学	浙江寧波県立中心医院	277
32	張景澄	鑑民	河北	医学	河北省立医学院眼科	281
33	陳 謨	典謨	広東	医学	上海・海寧医院	297
34	陳慰堂	憶萱	浙江	医学		297
35	陳 競	克讓		医学		298
36	陳方之	芳芝	浙江	医学 (医学博士)		299
37	陳宗堃	中肯	浙江	医学	上海小兒科医院	300
38	陳存善	航慈	江蘇	医学	山西医專教授	306
39	陳 彦		広東	医学	広州・十全医社	310
40	陸洪鈞	陶菴	江蘇	医学		313
41	屠宝琦	慕韓	浙江	医学	杭州熱帯病研究所研究員	317
42	程樹榛	慕頤	浙江	医学	上海・中行別業衛生試験所所長	323
43	黄 植	灼如	広東	医学	広東・光華医学院	335
44	黄運曦	晴初	四川	医学		337
45	楊蔚蓀		広東	医学		343
46	葉潤石	紹言	浙江	医学	浙江・六睦医院院長	345

47	葉培初		広東	医学	広州・東山浸会医院	346
48	雷周南		広東	医学	広東・福寧医院長	350
49	熊 俊	天珍	江西	医学	江西省立医専附属医院長	351
50	管 枢	仲瑜	浙江	医学		352
51	劉懋淳	正毅	江西	医学	江西・南昌市立医院院長	361
52	劉建燾	溥階	湖南	医学	長沙市立医院	362
53	劉伝箴	遵程	山東	医学	済南・光華医院	363
54	劉六峰		広東	医学	広東・光華医学院眼科、六峰医院	364
55	潘宗白	羨華	広東	医学		368
56	黎啓康		広東	医学	広州・花柳病院	377
57	薛錫齡	雪齡	江蘇	医学	上海・引翔医院	384
58	謝筠寿	念修	浙江	医学		385
59	謝逸智	朝愷	福建	医学	厦門・明々眼科医院	387
60	謝卓深	謝仏	広東	医学		387
61	鄺光衡		広東	医学	広東・仁安薬房	394
62	顔希魯	性然	浙江	医学	浙江・永嘉甌海医院	395
63	嚴智鐘	季約	河北	医学	南京陸軍軍医学校長	400
64	顧振群	乙帆	江蘇	医学		404
65	張光漢	幹廷	福建	医学、千葉医大	福建・莆田県立医院長	283
66	張汝焯		広東	医学、長崎医大	広州・宏興薬房	284
67	陳雨蒼	有琦	湖北	医学、独ベルリン	漢口・漢口医院	305
68	鄭推先	惟超	浙江	医学、東京女子医専	山西・汾州汾陽医院	375
69	伍連徳	星聯	広東	医学(医学博士)、英ケンブリッジ	全国海港權益管理处処長	165
70	鄺麗深		広東	医学、独ベルリン	広州・鄺磐石留医院	394
71	于福生	馥邨	江蘇	医学・選科		141

72	吳少海		広東	医学・選科		187
73	王象鐘	曉嵐	江蘇	医学・選科	江蘇・東台医院	151
74	李卓材		広東	医学・選科		203
75	汪良濟	良寄	浙江	医学・選科	上海自然科学研究所	207
76	羅兆寅	松秋	湖南	医学・選科	南京・康济医院、国民政府行政院 秘書処	396
77	張仲山	禔人	河北	医学・選科、 熊本医大		280
78	黄 琛	作械	福建	医学・選科、 日大医専	福州・復人医院	334
79	王長春	在蓬	浙江	薬学	上海市政府衛生局	148
80	陳 璞	樸成	浙江	薬学	南京軍政部軍医司材料科長	301
81	屠 模	伯範	江蘇	薬学		318
82	曾広方		広東	薬学（薬学 博士）	上海自然科学研究所主任生薬学科	320
83	鮑 榮	声遠	広東	薬学	陸軍軍医学校	383
84	王煥文	紹文	江西	薬学、東京薬 学専門学校	天津市政府秘書	156
85	何鳴鐸	立生	江蘇	薬学、東京薬 学専門学校	南京内政部衛生署	175
86	趙燾黄	薬農	江蘇	薬学、東京薬 学専門学校	国立中央研究院研究員	354
87	於達望	綫定	浙江	薬学・選科、 東京薬学専 門学校	浙江医専教授	222
88	曾 貞	幹生	江西	薬学・選科	江西省立医専教授	320
89	曾欽恭	安中	江西	薬学・選科	江西省立医専教授	320

3. 長崎医科大学（長崎大学医学部・薬学部） 68名

1	上官呉塵	悟塵	河南	医学	河南省立医院院長、河南大学医学 院教授	141
2	方声瀋		福建	医学	福建・声瀋医院	145

3	王世楷	禹謨	四川	医学		152
4	王 綸	緯宇	江西	医学	天津·新華医院	155
5	王稚榮		四川	医学	河北·鉄路南口医院	156
6	王一林		江蘇	医学	青島·民生医院	157
7	王際唐	金階	四川	医学	四川·保寧医院	159
8	江国益		広東	医学		172
9	呉雲鵬	秋搏	福建	医学	福建·遠東医院	187
10	李樹声	嘯山	広東	医学	上海·葉露医院	193
11	李世圻		湖南	医学		203
12	杜箕谷	竹筠	四川	医学	四川·保寧医院	206
13	沈 德	八諧	江蘇	医学	上海沈氏診所	209
14	沈 恭	士佳	江蘇	医学	上海沈氏診所	209
15	沈 良	湛軒	江蘇	医学	上海沈氏診所	209
16	周曾祐	枕雲	雲南	医学	南京·婦女医院	215
17	林維周	渭泉	浙江	医学		225
18	林亦奇		広東	医学	浙江·黄巖福民医院	225
19	金体選	子膺	浙江	医学	山西教育庁	232
20	俞達夫		江蘇	医学	浙江·永嘉甌海医院外科主任	234
21	胡廷楨	懋垣	江西	医学	江西省立医專教授	243
22	倪桐岡		江蘇	医学	河南大学医学院附設助産学校	248
23	徐 梁	藜卿	江蘇	医学		257
24	張銳士	永華	四川	医学 (女)	上海南洋医院産婦人科	274
25	張德輝	焕然	雲南	医学	上海·東方医院	274
26	張天曦		湖北	医学	北平同仁会北京医院	280
27	張任華	作輝	江西	医学	青島市衛生局長	282
28	戚学綉	錦堂	山東	医学	陸軍軍医学校教官	285
29	許贊猷	佐助	江西	医学		293
30	陳 憲	勉公	湖北	医学	漢口·共濟医院	305
31	陳 豹	和榮	広東	医学	香港·幸福藥房	310
32	陶 鑄	冶公	浙江	医学		313

33	陸宗翰	紹光	浙江	医学		314
34	单毓如		江蘇	医学	杭州濟生助産学校附属医院	317
35	彭乃琦	瑰意	江西	医学		318
36	斯 榮	夙明	浙江	医学		319
37	斯 明	警吾	浙江	医学		319
38	馮祖昭	強士	浙江	医学	青島膠濟鐵路公益課医務主任	329
39	葉 露	蔚文	江蘇	医学	上海・葉露病院	344
40	葉秉衡	漢丞	江蘇	医学	上海・五州固本造胰廠	345
41	趙 鏄	寿民	江蘇	医学	江蘇・弘仁医院	355
42	趙中天	罕言	吉林	医学	青島膠濟鐵路局	356
43	劉東興	漢裔	江蘇	医学	上海・東興医院	358
44	劉輔定	予凡	湖南	医学		362
45	劉伯芳	樹勳	広東	医学		365
46	劉暉光	奎垣	雲南	医学	雲南軍医学校教官、大同医院	365
47	蔣保康		江蘇	医学	上海・中法藥房	370
48	蔣志新	梓心	浙江	医学	浙江・徳心医院長	371
49	鄧榮光		広東	医学	青島市政府公安局医務主任	373
50	鄧 晶	瑩光	雲南	医学	雲南昆明陸軍医院	373
51	鄭鳴鎮	芳洲	河南	医学	河南・芳州医院	375
52	薛 健	強初	陝西	医学	青島・強初医院	385
53	謝康世	吟蓀	四川	医学	山東・淄川医院	387
54	戴棣齡	穠季	江蘇	医学	江蘇・鎮江弘仁医院	391
55	魏怡春		福建	医学	江西省立医專教授	395
56	羅致徽		広東	医学	広東・真理医院	397
57	蘭晋祥	楚生	山西	医学	山西・川至医專教授	402
58	顧 耆	寿白	浙江	医学	上海・寿白医院	403
59	張汝焯		広東	医学、東京大学	広州・宏興藥房	284
60	劉建勳	臥雲	湖南	医学、東京医学専門学校	長沙・中央陸軍医院長	362

61	王裕昌	惺怡	雲南	藥學	上海協和化學製藥公司	148
62	沈 瑾	幼蘭	江蘇	藥學	漢口同仁會漢口醫院藥劑員	211
63	周軍聲	冠三	山東	藥學	北平國立大學醫學院教授	218
64	倪守仁	筱初	雲南	藥學	雲南·東陸醫院	248
65	張 楷	劍秋	湖北	藥學	武昌省立醫院檢驗科	279
66	陳景伊	清福	浙江	藥學		304
67	蔡東賢	冬逸	江蘇	藥學	漢口市立醫院	370
68	薛光釗	季周	江蘇	藥學	陸軍軍醫學校	385

4. 名古屋醫科大學（名古屋大學醫學部） 39名

1	王達五	錦洲	江蘇	醫學		149
2	王清源	澄初	陝西	醫學	漢口·關中醫院長	154
3	王東斗	階平	山東	醫學	濟南·博愛醫院	157
4	田萬中	選青	山西	醫學	山西·魏榆函書局	163
5	吳宗慶	序新	江西	醫學	上海警備司令部	181
6	吳傳細			醫學		183
7	吳啓憲	浜清	山東	醫學	濟南·萬達醫院	186
8	林世偉	蘇民	江蘇	醫學	蘇州·蘇民醫院	224
9	俞保康		江蘇	醫學		234
10	段世德	新吾	雲南	醫學	雲南·新吾藥房、雲南軍醫學校教官	239
11	胡起桐	琴生	湖北	醫學	漢口·江漢醫院長	243
12	胡承先	元才	四川	醫學	四川·福音醫院	245
13	范紹洛		江蘇	醫學		246
14	秦刺海		四川	醫學	上海 同學醫院	263
15	秦瑩鑑	靜明	四川	醫學	四川·合川醫院	263
16	馬秉惠	子荊	山西	醫學	山西·川至醫專教務主任	266
17	張友焜	伯恂	湖北	醫學		281
18	曹炳章	仲文	山西	醫學	山西·川至醫專教授	286
19	陳 照	旭昇	江蘇	醫學	上海·亞東醫院	297

20	陳度群		四川	医学		306
21	陳昌道	子樂	広東	医学		310
22	傅 濂	道溪	四川	医学	四川・愛生医院	315
23	彭毓裕	豊根	四川	医学	上海・南洋医院	318
24	華景爽	拯黎	江蘇	医学	上海・大同医院	326
25	黄季直		広東	医学	広東・広徳医院	336
26	黄遵憲		四川	医学	西安赤十字会医院外科主任	337
27	靳瑞萱	祥垣	山西	医学 (医学博士)	山西・川至医専校長	337
28	楊述祖	仲明	陝西	医学	上海自然科学研究所	338
29	楊育生			医学	済南・育生医院	342
30	楊煥章			医学	済南・山東省立医院	342
31	臧 霆	伯庸	浙江	医学		353
32	劉 績			医学		361
33	劉名貴	賦強	四川	医学 (医学博士)	福州・復人医院	364
34	鄧日誥	培生	広東	医学		372
35	謝俊謙		陝西	医学	漢口・長江医院	386
36	瞿祖良	直甫	江蘇	医学	上海・直甫医院	390
37	羅会壩	玄崑	安徽	医学		396
38	顧南師	軍六	江蘇	医学	上海 江蘇戒煙医院	403
39	顧南群	沢民	江蘇	医学	上海 南洋医院	403

5. 九州帝国大学医学部 (九州大学医学部) 31名

1	戈紹龍	楽天	江蘇	医学 (医学博士)	広西省立医学校院長	144
2	王大徳	愚若	四川	医学	漢口・普仁医院長	153
3	戎肇敏	醉陶	浙江	医学	北平・震旦医院	166
4	余 霖	雲煥	浙江	医学 (医学博士)		177
5	沈健安	劍寒	浙江	医学		209

6	周文達	煦華	浙江	医学	南京衛生署校正	215
7	孟憲蓋		山東	医学 (医学博士)	広州・中山大学医学院	221
8	柳南柱		広東	医学	広東博愛会医院	239
9	洪式閻	百容	浙江	医学	杭州医院	240
10	胡 鯤	翼鵬	浙江	医学	杭州医院	242
11	夏禹鼎	子和	浙江	医学		250
12	夏禹銘	宇民	浙江	医学 (医学博士)	浙江寧波県立中心医院長	251
13	徐誦明	軾游	浙江	医学	国立北平大学長	259
14	祝振綱	枕江	江蘇	医学	北平・清華大学医院長	262
15	崔元愷	仲餘	広東	医学	広州・中山大学第二医院	270
16	莊兆祥		広東	医学	広州・中山大学第一医院	292
17	陳 中	君哲	浙江	医学		306
18	彭玉書		広東	医学		319
19	楊子韜		広東	医学 (医学博士)		343
20	楊子驥		広東	医学	広東・中山大学医学院教授	343
21	董道蘊	陶雲	浙江	医学		347
22	劉先登	尚之	湖北	医学 (医学博士)	北平大学医学院教授	363
23	劉祖霞	嘯秋	江西	医学 (医学博士)	広州・中山大学第二医院	364
24	錢 潮	君胥	浙江	医学	杭州・地方内科医院	381
25	戴夏民	夷々	浙江	医学	南京・鼓楼医院	391
26	譚大同		広東	医学	広州・大同医院	398
27	蘇記之		江蘇	医学 (医学博士)		400
28	蘇炳麟	師鳳	広東	医学	広東・光華医学院教授	401
29	顧祖漢	月槎	江蘇	医学	蘇州・東口城中医院長	404
30	龔宝鍵	希生	浙江	医学	浙江・雪航医院	405

31	陶 熾	熾蓀	江蘇	医学、東北 大学	上海自然科学研究所	312
----	-----	----	----	-------------	-----------	-----

6. 岡山医科大学（岡山大学医学部） 24名

1	巴忠祥	星五	広西	医学	青島市立伝染病院院長	144
2	呉克俊	意禪	江西	医学	江西医専教授	185
3	呉光濤	晴洲	江西	医学	江西医専教授	185
4	呉廷桂	秩岩	江西	医学	陝西・西安省防疫処	186
5	李詩時	雲之	江蘇	医学		195
6	李定謙		江蘇	医学		198
7	李光綸	控陳	河北	医学	北平・光綸医院	200
8	姚鴻翥	志鳳	江蘇	医学	北京医院	235
9	張積仁	寿彭	山東	医学	山東・樂済医室	283
10	陳人杰		江蘇	医学		297
11	焦増琪	錫祉	河北	医学		322
12	賀孝銘	仲馱	四川	医学	漢口・復明医院	326
13	黄聯芳	春陽	四川	医学	成都・春陽医院	337
14	楊瑞苞	竹襄	江西	医学	江西医専教授	340
15	鄒懷淵	躍如	江西	医学	江西・金谿県立医院院長	349
16	廖鼎銘	志人	広東	医学	香港・志人医院	351
17	趙脩頤	伊川	福建	医学	福州博愛会医院	356
18	劉 雄	以祥	福建	医学		357
19	劉 泰	令從	福建	医学		365
20	潘其燠	経蓀	浙江	医学		368
21	謝剛傑	慈舟	四川	医学	蘭州・中山医院院長	387
22	鐘季襄	醉卿	江西	医学	江西省立医専教授	388
23	鐘体徳	九丹	四川	医学	四川省立医専教授、九丹医院	389
24	龔逸驥	亦祁	江蘇	医学		405

7. 東京女子医学専門学校（東京女子医科大学） 24名

1	朱 微	君果	河北	医学		170
---	-----	----	----	----	--	-----

2	朱松子		広東	医学		170
3	呉蓮貞	惇允	浙江	医学	浙江・蓮貞医院	184
4	林楊雪楨	雨英	江蘇	医学	蘇州・蘇民医院	224
5	施秉慧		福建	医学	上海市衛生局	237
6	胡佩芬		浙江	医学		242
7	胡育英	克承	陝西	医学	北平東单健生藥社	244
8	孫津環	燕胆	四川	医学		252
9	張王和容	兆雍	福建	医学		283
10	馮葆真		江蘇	医学		328
11	黄則瑜		福建	医学	福州・兆培医院	334
12	黄道玲		広東	医学	広東博愛会医院医師	335
13	楊采芝		江蘇	医学		339
14	虞小棠		福建	医学	厦門・小棠医院	348
15	熊松雪	竹筠	江蘇	医学	江蘇・松雪産科院	351
16	熊 懂	学礼	江西	医学	江西・博愛医院、江西省立助産婦 学校附属院長	352
17	鄧何建民	孝鈺	福建	医学		373
18	錢旭琴		江蘇	医学	江蘇呉江・旭琴医院	381
19	錢雲英		浙江	医学	杭州・雲英医院	381
20	蕭怡僊		湖北	医学	漢口・德齋医院	393
21	蘇淑貞		広東	医学		401
22	蘇儀貞		広東	医学		402
23	馮啓重		江蘇	医学、独ベ ルリン	天津・啓重医院	329
24	鄭推先	惟超	浙江	医学、東大	山西・汾州汾陽医院	375

8. 東京医学専門学校（東京医科大学） 24名

1	方 杲	東雨	江蘇	医学		145
2	王愛賢	維賢	福建	医学	厦門・博愛会医院	158
3	白瑞珽	正宇	山西	医学	山西陸軍医院、中医改進研究会	163
4	李攀雲	子高	山西	医学	山西太原・亜東医院院長	199

5	李文祐		熱河隆化	医学	同仁会済南医院	201
6	汪仏航			医学	上海・後得医院	207
7	武振綱	佩三	山西	医学	山西・川至医院	228
8	柳世昌	琦五	山西	医学		238
9	范光祖	繩武	山西	医学	山西・新新医院	246
10	孫濟方	康民	安徽	医学		252
11	康乾勳	健男	山西	医学	北平東单健生薬社	271
12	張紹衡	寿人	江西	医学	江西省立医専教授	278
13	梁顕栄	佩之	山西	医学		287
14	陳東曦			医学	上海・新生医院	300
15	黄樹奎	子正	福建	医学	上海・恵済医院	330
16	黄文山			医学		332
17	楊 紳	王綬	江蘇	医学	南京憲兵司令部軍医院	339
18	楊沢溥	潤泉	山西	医学	天津・済衆医院	342
19	雍世勳	駿伯	奉天	医学	北平衛戍医院長	349
20	趙燮中	誠仲	陝西	医学		355
21	樊清江	泯源	山西	医学	長安陸軍医院	366
22	蘇維沂	子浜	福建	医学	天津・更生医院	401
23	莊紹周	華堂	浙江	医学、東北 大学薬学	南京軍政部軍医司	291
24	劉建勳	臥雲	湖南	医学、長崎 医大	長沙・中央陸軍医院長	362

9. 東北帝国大学医学部（東北大学医学部・薬学部） 20名

1	王観海	鏡清	湖北	医学	漢口市衛生局科長	153
2	王功科	海観	湖北	医学	漢口市立医院	153
3	王震東	亜新	湖北	医学	河北省立医学院	156
4	石錫祐	煥如	河北	医学		164
5	朱宗顕		広東	医学		171
6	朱浩坤		広東	医学		171
7	何卓群	藩侯	広東	医学		176

8	周汝為	仲宣	雲南	医学	雲南軍医学校教官	220
9	林 瑩	琇如	浙江	医学	杭州・熱帯病研究所、杭州医院	224
10	林榮年		福建	医学	杭州・熱帯病研究所、杭州医院	224
11	馬志道	中行	湖北	医学	濟南・同仁会濟南医院	266
12	馬玉卿		湖北	医学	漢口・寿康医院	266
13	張汝可	与曼	広東	医学		271
14	陳暉成		広東	医学		310
15	黃震亜	曼欧	浙江	医学	浙江医專教授兼教務主任	332
16	黃丙丁		福建	医学 (医学博士)		334
17	趙福寿	齡九	河北	医学	河北省立医学院	355
18	陶 熾	熾蓀	江蘇	医学、九州大	上海自然科学研究所	312
19	趙世晋	蕃叔	江蘇	薬学		354
20	莊紹周	華堂	浙江	薬学、東京医学専門学校	南京軍政部軍医司	291

10. 日本医科大学 (18名)

1	王基安	恵生	広東	医学	華僑医院	149
2	朱慶昇	滌生	江蘇	医学		168
3	冷光燭	良丞	湖北	医学	漢口共濟医院	180
4	周 英	寰西	湖南	医学		214
5	周肇圻	伯維	浙江	医学		216
6	周懷仁	廸聰	湖南	医学	長沙・湖南公医院	218
7	林燭東	朝曦	福建	医学		223
8	席時泰		江蘇	医学	上海・英国駐滬工部分署医官	256
9	張輔袞	佑震	浙江	医学	杭州・公濟医院	277
10	郭 度	公器	浙江	医学		294
11	陳懋侗	愿士	福建	医学	北平・保安医院	306
12	陸 爽	露沙	江蘇	医学	上海・露沙医院	313
13	喻智静	知青	江西	医学	江西医專教授	316
14	黃邦瑞	祥甫	江蘇	医学		330

15	黄 曇	劈寰	広東	医学	広東・太和堂	336
16	熊秉彝	吾痴	江西	医学	広州博愛会医院	352
17	蘇守仁			医学	南京軍事訓練総監部	401
18	顧南達	衢九	江蘇	医学	青島市立医院	404

11. 大阪帝国大学医学部（大阪大学医学部） 16名

1	王秉鉞	明威	四川	医学	成都・瀛寰医院	159
2	江華縉	明源	湖北	医学	漢口・湖北医院院長	172
3	何積煥	志薑	湖南	医学	浙江病院外科部長、浙江医専教授	175
4	余 巖	雪岫	浙江	医学	上海・雲岫医院	177
5	汪尊美	企張	江蘇	医学	上海中国肺病院院長	206
6	汪桐美	于岡	江蘇	医学		207
7	夏建安	慎初	江蘇	医学		250
8	崔熾黄	育群	広東	医学	広州・永隆薬舗	270
9	盛在珩	佩葱	浙江	医学	浙江病院、浙江医専教授兼医院長	323
10	黄実存		広東	医学		333
11	劉丙炎		湖南	医学	長沙・仁濟医院	362
12	蔣可宗	秋然	浙江	医学	南京軍政部陸軍署	371
13	瞿 鈞	紹衡	江蘇	医学	上海・生々医院長、助産学校長	390
14	蕭漢一	徳斎	湖北	医学	漢口・徳斎眼科医院	393
15	龔 龢	受昌	四川	医学	四川・重慶医師公会	405
16	江聖鈞	秉甫	浙江	医学、独ベルリン	浙江医専教授、附属医院内科主任	172

12. 京都府立医科大学（11名）

1	向仙良	東岸	湖南	医学	長沙・湖南公医院	166
2	池龍珠	汝立	四川	医学	四川・回生医院	174
3	宋虞琪	祥徵	四川	医学	上海・虞琪医院、招商局職工診療所主任	190
4	宋 健	殿生	湖南	医学	長沙・湖南公医院	191
5	明増灝	制初	雲南	医学		222

6	張珩雯	心如	四川	医学	四川・成都民生医院	284
7	陳 魏	俶南	浙江	医学	青島市社会局衛生科	307
8	楊椿生		江蘇	医学		339
9	蔡文淼	禹門	江蘇	医学	上海中法大学薬学専科学長	369
10	吳濟時	谷宜	江蘇	医学、独ベルリン大学		183
11	胡嘉訓	彝伯	江西	医学、独ベルリン大学	南京・民生医院	242

13. 東京薬学専門学校（東京薬科大学） 10名

1	田景雲	漢如	山西	薬学	北平・健生薬社	163
2	於達準	仲静	浙江	薬学	上海開成工廠	222
3	孫潤畚	叔穎	江蘇	薬学	天津市社会局衛生科	254
4	崔国滔		広東	薬学	広州・広東博愛会医院	270
5	趙協中	龍伯	陝西	薬学		357
6	戴景達	虹溥	山西	薬学	山西・川至医専教授	392
7	王煥文	紹文	江西	薬学、東京大薬学部	天津市政府秘書	156
8	何鳴鐸	立生	江蘇	薬学、東京大薬学部	南京内政部衛生署	175
9	於達望	綫定	浙江	薬学、東京大薬学部	浙江医専教授	222
10	趙燦黄	薬農	江蘇	薬学、東京大薬学部	国立中央研究院研究員	354

14. 東京慈恵会医科大学（東京慈恵会医科大学） 9名

1	牛呈璋	星南	山西	医学	山西・太原陸軍医院外科主任	147
2	王兆培		福建	医学	福州・兆培医院	158
3	吳韶九		山東	医学	済南・東亜医院	186
4	李志夔		河北	医学		200
5	李 漾		広東	医学	広州・大聖薬房	203
6	武盡偉	建民	山西	医学	山西・太原陸軍医院	228

7	徐成鑾	精賅	湖北	医学		259
8	張 鑿	維和	浙江	医学	国立上海医学院	274
9	張蔭蒼		福建	医学	南京・中国国民外交後援会医務組 組長	275

15. 京都帝国大学医学部（京都大学医学部） 7名

1	李国幹	博仁	湖北	医学	漢口市立医院院長	198
2	孫孝寬		貴州	医学	上海・寛民医院	251
3	桂毓泰	紫東	陝西	医学	広州・中山大学第二医院長	261
4	張培元	繼元	福建	医学	上海・永安医院	274
5	温泰華	嶷如	広東	医学	広東・中山大学医学院	322
6	廖煥章			医学（医学 博士）	上海・中和医院	350
7	蔣履曾	祇斉	江蘇	医学	南京第一医院長	371

16. 慶應義塾大学医学部 6名

1	李旭初		河北	医学	南京軍政部軍医司衛生科長	195
2	殷同寿	希彭	河北	医学	河北省立医学院	262
3	張鑄和	濟蕪		医学	済南・山東医專附属医院耳鼻科	282
4	程紹伊		四川	医学	北平・池田医院	324
5	賀維彦	向初	河北	医学（医学 博士）	保定省立医学院教授	326
6	李文瀾	翰波	広東	医学、千葉 医大	南京・夫婦医院	195

17. 熊本医科大学（熊本大学医学部） 5名

1	王海天	一清	福建	医学	南京電療院長	149
2	段景瞻	慧軒	河北	医学	青島市立伝染医院	239
3	傅汝勤	惕生	湖北	医学	天津市社会局衛生科	315
4	蔡懋鈺	振声	江西	医学	九江・仁濟医院	370

5	張仲山	禔人	河北	医学、東大 選科		280
---	-----	----	----	-------------	--	-----

18. 金沢医科大学（金沢大学医学部） 4名

1	周 威	仲奇	江蘇	医学	南京中央大学校医	215
2	湯爾和	爾和	浙江	医学（医学 博士）		321
3	厲家福	綏之	浙江	医学	浙江病院副院長	357
4	周頌声	歌庭	山東	医学（医学 博士）	天津・啓亜医院	218

19. 東京高等歯科医学校（東京医科歯科大学） 3名

1	余復昌		広東	歯学		179
2	陳朝政	弼臣	福建	歯学	上海・家庭工業社	298
3	彭 鎔	化徒	四川	歯学	四川・齒疴医院	319

20. 富山薬学専門学校（富山大学薬学部） 2名

1	毛樹騏	学海	湖南	薬学		146
2	汪淇美	竹君	安徽	薬学	上海市衛生試験所技正	207

21. 新潟医科大学（新潟大学医学部） 1名

1	黄学堂	永彰	福建	医学		330
---	-----	----	----	----	--	-----

22. 日本大学専門部医学科（日本大学医学部） 1名

1	黄 琛	作械	福建	医学、東大 選科	福州・復人医院	334
---	-----	----	----	-------------	---------	-----

23. 日本歯科医学専門学校（日本歯科大学） 1名

1	張鴻典	子敬	河北	歯学		281
---	-----	----	----	----	--	-----

24. 大阪歯科専門学校（大阪歯科大学） 1名

1	彭 溶	菊洲	江蘇	歯学	上海・東南医学院教授	318
---	-----	----	----	----	------------	-----

2) 大学別の特色

前節で見たように、医学薬学を学ぼうとする中国人の留学先としては千葉医科大学が最も多かった。それは、同大が1908年から15年間、中国人の医薬留学生の公費留学の指定校、いわゆる「五校特約校」になっていたためである⁽⁸⁾。また、2位は東大であったが、別の学校を経た上での入学者も少なくなく、学術的な深化を望む学生にとっては、やはり志望したい大学であったことが窺える。

ところで、同仁会が発行していた雑誌『同仁医学』（1930年9月号）には、日本留学の後、中国に戻った医師たちの留学先人数が紹介されている。こちらは総計789名によるデータだが、それによれば、第1位は千葉医科大学が154名（全体比20%）、続いて長崎医大102名（13%）、東大医学部90名（11%）、東京医専62名（8%）、東京女子医専62名（8%）、九州大医学部37名（5%）、名古屋大医学部（愛知医大）37名（5%）などの順番となっていた（表3）。

それに比すると、『綜覧』は、東大が2位になっているほか、官立学校系が相対的に多い点に特色があるように思われる。またこちらは、1930年ころのデータであるのに対し、『綜覧』は5年後のものである。したがって、もう少し人数が増えても良いはずである。しかし、前者（表3）は「留学先の調査」なので、すでに引退した人や物故者も含まれている可能性、『綜覧』は現役者のみの収録にとどまっている、あるいは住所情報のみの公開で、留学先が示されていない（あるいは2国以上留学していても1国のみ申請にとどまる）等の可能性があるが、詳細は不明である。今後の調査を待つほかない。

3) 帰国後の職業の特色

500名の日本留学経験者の職業を、『綜覧』のデータからまとめると次のようになる（2つの職業が記されていた人はそれぞれ「1」と計上したので、延べ数は508名となった。また人数の後に示した百分比は、実数の500を母数として算出したものである）。

医院／病院関係 210名（全体比42%）、医学校関係（教員・附属病院）82（16%）、軍隊関係29（6%）、政府・官庁関係26（5%）、薬品系会社14（3%）、薬局関係9（2%）、研究所8（2%）、諸学校1、医学雑誌編集1、記載なし128名（26%）。

すなわち、医院（病院）に関わっている元留学生が4割と最多であった。次いで、多かったのは、医学校教員および附属病院関係者（16%）である。

これらのうち、医学校⁽⁹⁾については、元留学生の勤務先と人数を挙げておきたい（なお、校名は『綜覧』の「凡例」に載っている名称をそのまま用いている）。江西省立医学専科学学校（14名）、浙江省立医薬専科学学校（12名）、国立北平大学医学院（7）、国立中山大学医学院（7）、上海東南医学院（6）、山西川至医学専科学学校（6）、河北省立医学院（4）、広東光華医学院（3）南通学院医科（3）、広西省立医学専科学学校（2）、河南省立大学医学院（2）、四川省立医学専科学学校（2）、清華大学（1）、保定省立医学院（1）、南京中央大学（1）、国立上海医学院（1）、上海中法大学（1）、江蘇省立医政学院（1）、青島

表3 留日中国医学生の出身校（1929年ころまで）

学校名	卒業生数	全体比 (%)
千葉医大	154	20
長崎医大	102	13
東京帝大医学部	90	11
東京医専	62	8
東京女子医専	62	8
九州帝大医学部	37	5
名古屋帝大医学部	37	5
岡山医大	28	3
日本医大	27	3
大阪帝国大医学部	24	3
慈恵医大	21	3
東北帝大医学部	20	2
京都府医大	18	2
東京薬専	15	2
帝国女子医専	13	2
金沢医大	10	1
京都帝大医学部	9	1
慶応大学	7	1
熊本医大	7	1
富山薬専	5	1
その他	41	5
総 計	789	100

出典『同仁医学』1930年9月号

大学（1）、山東省立医学専科学校（1）、江西省立助産婦学校（1）、広州育慈助産学校（1）、広州済生助産学校（1）。

ところで、筆者はかつて千葉医専・医科大の元留学生の帰国後の職業について調査したのだが、職業が判明した269名のうち、最多の職業は医学校教員で72名（全体比27%）であった。以下、勤務医57名（21%）と開業医56名（21%）、軍医42名（16%）、政府・官庁20名（7%）などが続いた⁽¹⁰⁾。

また、長崎医専・医科大の元留学生についての調査もおこなったが、職業が判明した66名は、勤務医33名（50%）、医学校教員18名（27%）、開業医8名（12%）、政府・官庁8名（12%）などであった⁽¹¹⁾。

一方、今回扱った『綜覧』の職業分類は、「勤務医」と「開業医」の識別が難しく、「医院／病院関係」という範疇にまとめた。そこで、千葉医科大、長崎医科大も同様な処理にすると、千葉の「医院／病院関係」は113名（全体比42%）、長崎は41名（62%）となる。こうした処理を施せば、『綜覧』の数字（比率）に近似してくると見ることもできる。

しかしながら、これらを単純比較することにはいくつかの問題が含まれている。すなわち、千葉と長崎の場合は、筆者が、ひとりの元留学生の生涯の履歴を可能な限り追究し、たとえば、時期時期で医科大学勤務、地方政府役人、開業医をそれぞれ務めた元留学生については、「三つの職業」を遍歴したとして、それぞれ「1」とカウントしている。

一方、『綜覧』の場合は、1934年ころの調査に基づき、その段階での職業を掲載しているものと思われる。よって、『綜覧』に表れた職業が、「帰国留学生のその後の活動」を網羅している訳ではないことは十分に留意する必要がある。さらに『綜覧』の「住所・診療所」の項目に、「住所」しか書いていない人（また全く無記載の人）が128名（26%）いることをどのように読み解くかも難しい問題となる（さきほども本件についての言及をした）。一般的に考えれば、その段階では「医業を退き、無職であった」という解釈になるが、個人の開業医をしているので、住所しか出していないという可能性は排除できない。さらに、この調査段階で物故していた医師は『綜覧』の「医師名録」には含まれていないと考えるのが穏当な理解だろう。

つまり、『綜覧』の「職業欄」（正式には「住所・診療所」欄）はそのような性格の資料であることを理解する必要がある。今後、筆者が千葉医科大や長崎医科大の帰国留学生を対象に行なったような作業を悉皆的に行うことによって、全体像が明らかになると考えている。

おわりに

本稿は、同仁会が1935年に発刊した『中華民国医事綜覧』の「中国医師名録」に掲載されていた「海外留学経験者」の特質を、日本留学者に焦点を当てて明らかにしてきた。

この「同仁会」は全文中国語による『同仁医学雑誌』も発行していた。この誌上で「中華民国医界名士録」と題し、医学者・医師を紹介する連載が16回（1929年7月号～1930年10月号）行われていた。この企画について、筆者は別稿で分析を加えた⁽¹²⁾が、それによれば、「名士」として掲載された106名のうち、中国国内のみで学び、留学経験のない医学者は21名（全体比19.4%）だった。またそれを除く85名の留学先は次の通りであった（85名を母数とした百分比も加えた。なお複数国への留学（滞在）経験者はそれぞれ「1」と数えたため、総計は85名を越えている）。

日本50名(全体比58.8%)、ドイツ19名(22.4%)、アメリカ15名(17.6%)、イギリス6名(7.1%)、フランス6名(7.1%)。

今回の『綜覧』の分析から見えた留学先を、ここで改めて示すと、日本留学生500名、アメリカ114名、ドイツ100名、イギリス27名、フランス21名、その他12名であった。

この総計の775名を母数とする百分比を示すと、日本65%、アメリカ15%、ドイツ13%、イギリス3.5%、フランス2.7%となる。

双方のデータは、同じ「同仁会」の調査にかかるものだが、性格を異にしており、単純な比較はできない。しかし、いずれにしても、1920年代末の中華民国において、海外留学経験者の7割近くが日本留学生であり、結果として中国国内における日本留学生の影響力(評価)⁽¹³⁾もそれに付随して少なからずあったことは明白になるだろう。

『中華民国医事綜覧』は、1934~35年ころに、現役で活動していた人士を対象とする調査であるため、物故者は除かれていたであろうこと、留学先や現職については掲載するスペースの関係もあり、情報の精粗に差があったことは否定できない。しかし、4773名の海外留学経験者(うち日本は500名)の概要をまとめた本書は、他の資料からの補足を適宜実施することにより、1930年代中国における医学者の状況や彼らの「学び」について跡付けることができる貴重な史料であることは間違いないだろう。

今後は、日本以外の海外留学生の特質、また留学を経験していない中国人医師たちの職業などについても引き続き検討していくことを課題としたい。

[付記] 本研究は、2020~22年度JSPS科研費基盤C・一般(20K02508)「1930~40年代日本における中国人留学生教育」の助成を受けた成果である。

註

- 1 「同仁会規則概要」『同仁』第1号、1906年6月号。
- 2 同仁会側の正史として『同仁会三十年史』(1932年)、『同仁会四十年史』(1943年)があるが、研究はそれほど進んでいるとは言えない。そのなかで、丁蓄「近代日本の対中医療・文化活動—同仁会研究①~④」『日本医史学雑誌』45-4、46-4、1999~2000年)は、中国の近代医学発展に貢献した半面、日中戦争以降は日本の文化的慰撫(文化工作)の一翼を担ったとの指摘をする現状での代表的論文である。また近年では、藤田賀久「同仁会と近代日中関係—人道主義と侵略の交錯」『紀要(多摩大学グローバルスタディーズ学部)』8号、2016年などがある。見城も、現在の千葉大学の前身校への留学生についてまとめた『留学生は近代日本で何を学んだのか—医薬・園芸・デザイン・師範』(日本経済評論社、2018年)、のなかで、同仁会の役割について多少言及した。一方、中国側の研究は批判的なものがほとんどで、たとえば王萌「抗戦時期日本在中国淪陷区内的衛生工作—以同仁会為对象的考察」『近代史研究』2016年第5期などがある。
- 3 同書は、国立国会図書館に蔵書されており、現在では、「デジタルライブラリー」から、全ページをネット上で閲覧することができる。<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1050143>
- 4 前掲、見城『留学生は近代日本で何を学んだのか』。なお千葉大学医学部・薬学部の前身校については、見城「明治~昭和期の千葉医学専門学校・千葉医科大学における留学生の動向」『国際教育』2

号、2009年、見城「千葉医学専門学校・千葉医科大学時代の留學生をめぐる諸史料について」『国際教育』7号、2014年、でも論じた。また長崎大学医学部・薬学部については、見城「長崎医学専門学校・医科大学で学んだ留學生とその特色」『千葉大学国際教養学研究』3号、2019年。見城・坂本秀幸「長崎医学専門学校中国留學生の赤十字隊と「辛亥革命」」『国際教養学研究（千葉大学）』4号、2020年、でまとめた。

- 5 阿部洋『「対支文化事業」の研究—戦前期日中教育文化交流の展開と挫折』汲古書院、2004年。山根幸夫『東方文化事業の歴史—昭和前期における日中文化交流』汲古書院、2005年。
- 6 金子直は、千葉医学専門学校を1914年に修了した元日本留學生である（前掲、見城『留學生は近代日本で何を学んだのか』p 20）
- 7 なお、「凡例」にあげた「学校名」の前身校、また現在の校名に至るまで変遷についての補足は割愛した。
- 8 前掲、見城『留學生は近代日本で何を学んだのか』、p 3。
- 9 本稿では、それぞれの医学校の特質について論ずることはしない。なお、前掲、見城『留學生は近代日本で何を学んだのか』では、千葉医専・医大の卒業生が多く勤務していた浙江省立医薬専門学校、北京大学医学院、上海東南医学院、南通医学医科大学、江西省立医学専門学校について、簡単に言及している（pp 71-75）。
- 10 前掲、見城『留學生は近代日本で何を学んだのか』、p 70。
- 11 前掲、見城「長崎医学専門学校・医科大学で学んだ留學生とその特色」p 33。
- 12 見城「近代中国における医学者の海外留學と帰国後の活動—「中華民国医界名士録」を素材として」『人文研究（千葉大学）』50号、2021年3月）。
- 13 「中華民国医界名士録」については、日本が作った医事団体の「同仁会」が発刊した雑誌であるため、元日本留學生が多くなるのは当然とも言える。ただし、前掲拙稿でも言及したが、「名士」の選定基準に、極端な日本偏重は見えず、思いのほか、他国留學生への目配りもしていることには留意したい。